

普及情報

分類名〔病害虫〕

情 14	カキ炭疽病の枝病斑から飛散する分生胞子の飛散消長
-------------	---------------------------------

宮城県農業・園芸総合研究所

要約

カキ炭疽病の枝病斑からの分生胞子の飛散は5月上旬ごろから始まり、6月から7月まで飛散数が多くなる傾向にあり、飛散は9月下旬まで継続する。

1 取り上げた理由

カキ炭疽病はカキの主要病害であり、県内の栽培地域で問題となっている。本病は果実に発生するため、収量減となるため経済的被害となる。カキ炭疽病の防除時期の基礎資料とするため、枝病斑からの分生胞子の飛散消長を調査したので普及情報とする。

2 普及情報

(1) カキ炭疽病の枝病斑からの分生胞子の飛散は、5月上旬ごろから始まり、6月から7月まで飛散数が多くなる傾向にあり、9月下旬まで継続する（図1）。

3 利活用の留意点

- (1) 試験は試験場内の圃場で行った。カキ炭疽病の罹病枝を吊るし、その直下約15cmに両面テープを貼付したスライドガラスを設置し、分生胞子を捕捉した。
- (2) 年によって分生胞子の飛散消長は異なることがある。特に、降雨が多い年は分生胞子の飛散数が多くなるので注意する。
- (3) 分生胞子の飛散が多くなる6月から7月までの薬剤防除が重要です。本病は前年に形成された枝病斑が重要な伝染源となるため、冬期の剪定で枝病斑の除去を徹底する。本病に罹病しやすい徒長枝が出ないような肥培管理を行い、余分な徒長枝は夏期の剪定で除去する。

(問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話 022-383-8111)

4 背景となった主要な試験研究の概要

(1) 試験研究課題名及び研究期間

有害動植物発生予察事業（平成 28～30 年）

(2) 参考データ

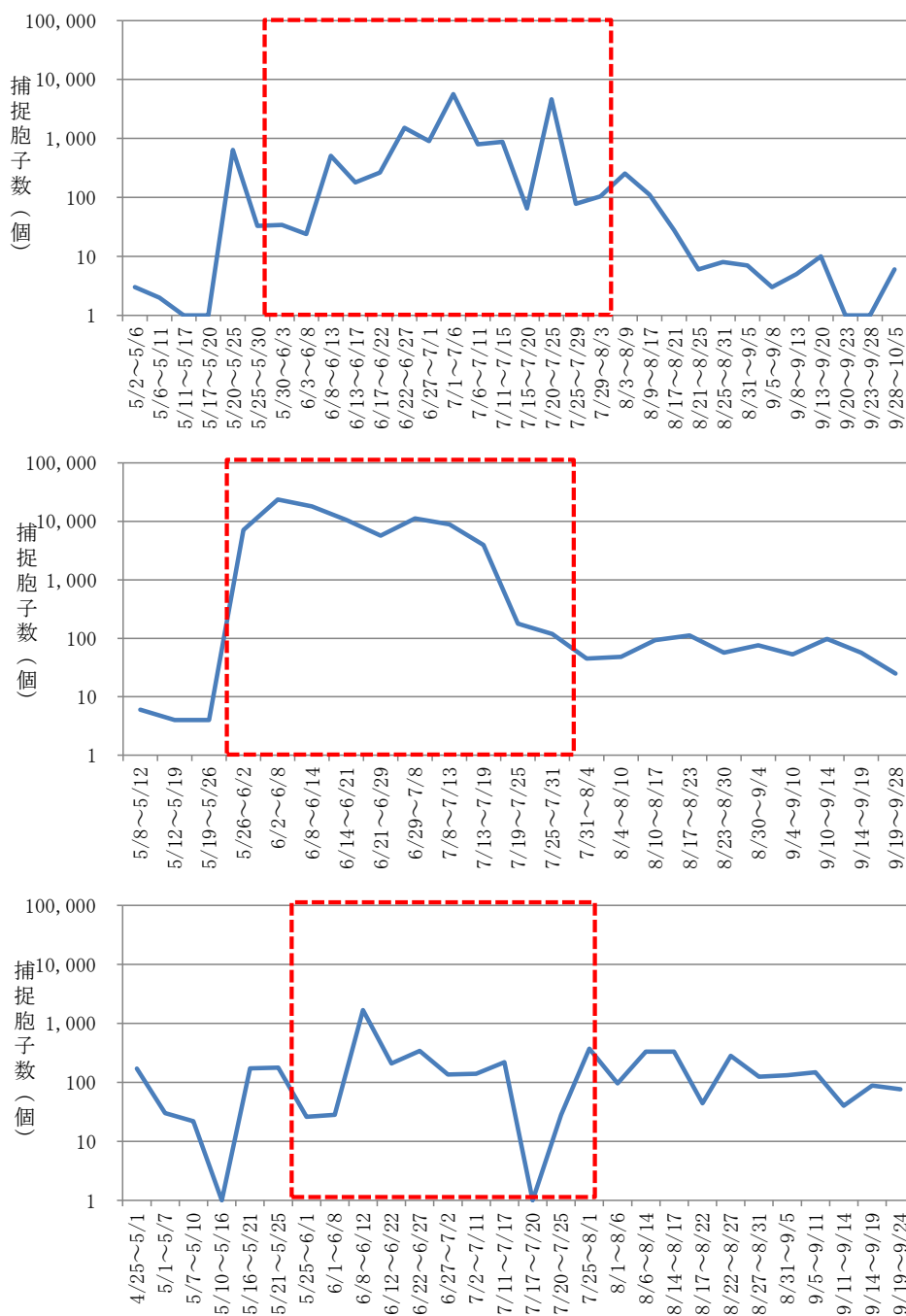


図1 カキ炭疽病の枝病斑からの分生胞子の飛散消長（平成28～平成30年度）

注1) 上段：平成28年度，中段：平成29年度，下段：平成30年度の調査結果。

注2) グラフ内の点線の囲みは6月から7月。

注3) 目盛りは対数目盛り。

(3) 発表論文等

なし

(4) 共同研究機関

なし